法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-26

追悼 中村哲先生

島村, 幸一 / SHIMAMURA, Koichi

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
沖縄文化研究 / 沖縄文化研究
(巻 / Volume)
31
(開始ページ / Start Page)
288
(終了ページ / End Page)
289
(発行年 / Year)
2004-08-10
(URL)
https://doi.org/10.15002/00002609

Hosei University Repository

追悼　中村哲先生

島村　幸一（沖縄文化研究所兼任所員）

先生のお姿に初めて接しましたのは、私が法政の大学院に入学を許された年、一九七九年でした。幸いにも、この年から三年間に亘る予定で、研究所が久米島の総合調査の科研費をとり、私も末席ながらその調査の手伝いに加えていただきました。その何回目かの打ち合わせの会議に、一同待つ中、先生は颯爽と姿を現しました。法政大学の総長で、沖縄文化研究所の所長。末席にいた私は、先生の姿を眩しく緊張した思いで拝見いたしました。

中野好夫先生が私財を投じて運営されておられた「沖縄資料センター」を引き継ぎ、大学付置の研究所として法政大学に設置できたのは、やはり、中村先生の御力が大きかったのだと思います。「沖縄資料センター」を発展させた「沖縄文化研究所」が、もし、大学の研究所に位置付いてなかったならば、おそらく、それは何年も維持できなかったと思います。「沖縄研究」も波があり、七二年「日本復帰」前後の数年は、関心が高かったように思いますが、それ以降は、また、熱が冷めたような状況になりました。今日十年以上も続く不況を考えますと、大学に設置した研究所でなくては、三十余年も存続する研究所にはならなかったと確信します。

それにしても、人の繋がりや縁というものは、不思議なものだとつくづく思います。中村先生が、柳田国男の御子息為正氏と友人であった関係から、柳田国男の書斎を「遊び場」にしておられたこと、旧制の中学・高校の成城学園時代では、戦後の沖縄研究の中心人物であった仲原善忠先生の教えを受けておられたこと、大学卒業後は、戦前の沖縄研究の拠点であった台北大学に就職して、沖縄を含めた「南方研究」に関わっておられたこと、そして、戦後は法

Hosei University Repository

政大学で教鞭をとり、時代を担う知識人のひとりとして活躍され、中野先生と親好を結ばれていたこと等々が重なり、中野「沖縄資料センター」を発展させた「沖縄文化研究所」を、法政に導くことになったのだと思います。

中村先生の悲報に接して、改めて先生を機縁として法政大学に「沖縄文化研究所」が誕生したことを思いました。中村先生をはじめとする当時の法政大学の先生方の見識、御英断、御尽力に感服いたします。微力ながら、私も研究所の発展につくしたいと思います。心より、先生の御冥福をお祈りいたします。